

インタビュー「ごちゃまぜな人」第2回

面川 英範 さん

福島県立平養護学校教諭／特別支援教育コーディネーター

子どもたちの『働く』を諦めない

障がいを持った子どもたちが「働くこと」を諦めない社会にしていきたい。そんな思いで、生徒たちの進路指導や、企業に対する働きかけを続けている平養護学校の面川英範先生。それぞれが違う障がいを持つ生徒に合った指導を模索し、時に厳しく子どもたちを育てています。障がいを持つ生徒たちの就職の現状について、面川先生に語って頂きました。



面川英範（おもかわ・ひでのり）

1971年いわき市小名浜生まれ。中央大学文学部卒。94年郡山市立大槻中学校、いわき市立好問中学校を経て、2002年に福島県立いわき養護学校に着任し、養護学校的教諭に。09年から福島県立平養護学校の教諭を務める。平養護学校は身体に障がいのある子供たちが通う特別支援学校。小学生から高校生まで年齢も、障がいの種類、程度、個性も様々でごちゃまぜな空間は、子どもたちの中に自然と「お互い様」の精神を育んできた。現在は、同校の進路指導主事として子どもたちの進路決定、就職などに尽力している。

一方で、生徒たちにも課題があつて、これだけ恵まれた環境で育つと支援されることに慣れてしまい、「自分に何ができるのか」の判断ができなくなってしまう。将来は問題を自分で解決していくかなければならぬはずなのに、自分のどこに課題があるのかに気づきにくくなってしまう。「自分にとってむずかしいこと」を自覚できるよう、さまざまな交流の場を作ったり、体験できる実習の場を作るようになっています。

うちの学校の生徒が就労できたら、もちろんそれはすごくうれしいですよ。でも、ものすごく我慢をして、会社の経営者が慈愛の心で障がい者を雇っていて、そのために現場がとても苦労することになつたら、それは幸せではありません。やはり、会社のほうも生徒もよかつたと思つてもらえることが一番の理想ですね。受け入れてくれる人の我慢の上に成り立つ採用ではなく、「全部はできないかもしれないけれど、この仕事をこうしたらすぐ役に立つ、戦力になるよ」というように、仕事を一部を切り出して雇用ができるならと思つています。

平養護学校は、いわき市平平窪地区の丘の上にある、肢体不自由の児童生徒が通う特別支援学校です。小学部、中学部、そして高等部の3つの部に分けられ、9年前に建て替えた素晴らしい校舎で、およそ100名の児童生徒が学んでいます。

私の仕事は、企業や福祉事業所と生徒たちを繋ぐ仕事。企業経営者にとって養護学校の生徒はまったく未知の存在ですから、企業側から採用の募集があったときなど、企業に直接伺って「こんな障がいをもつたこんな子がいます」というところから説明をしに行くんです。障がいは子どもたちによってバラバラ。「その子に向いた仕事」を探さなければ就労に繋がりませんから。

現在、厚生労働省が定める障がい者の法定雇用率「2・0%」というものがありますから、一見すると、障がい者の雇用は一定度守られているようにも感じます。しかし、企業側は「100人に2人」という実績があればよいので、障がいの度合いが高い、あるいは普通のキャリアを積んだ中途障がい（もともとは障がいがなかったが病気やケガなどで障がいを負ったケース）の方を雇う割合が高くなっているといいます。小さな頃から、あるいは生まれた時から身体が不自由な養護学校の生徒は、この「100人に2人」の中に入ることが難しいのです。

いわきから「ごちゃまぜ」あらゆる障がいのない社会へ

GOCHAMAZE times

特集

ごちゃまぜ的市民参加論

vol.2

2016 autumn



-CONTENTS-

[Talk Session]

横尾俊成さん(グリーンバード代表)

[GOCHAMAZE REPORT]

ごちゃまぜスポーツフェス

[Interview]

面川英範さん(福島県立平養護学校)

and more...

**theme****グリーンバード的市民参加論****横尾俊成さん**NPO法人グリーンバード代表&
港区議会議員（無所属）**松岡真満**

グリーンバードいわきチームリーダー

まちをかっこよく、きれいにするために全力でゴミ拾いをする活動「グリーンバード」。いわき市を拠点にする「グリーンバードいわきチーム」は、2015年の新体制発足後、ゴミ拾いに留まらない様々な「ごちゃまぜ」イベントを企画してきました。今回は、いわきチームリーダー松岡真満が、グリーンバード代表の横尾俊成と膝を突き合させて対談。市民の地域参画について、そしてグリーンバードの未来について語り合いました。



profile 横尾 俊成（よこお・としなり）

1981年神奈川県横浜市生まれ。大学卒業後、博報堂に入社。アパレル、官公庁、NPOなど幅広いジャンルを担当。2010年10月、博報堂を退社後にNPO法人グリーンバードの代表を務め、現在、港区議会議員。



profile 松岡 真満（まつおか・まみ）

1991年神奈川県横浜市生まれ。自身の高校留学がきっかけで、海外留学のコンサルタントとして、現地学校への入学など一連の手配を担当。現在、ソーシャルデザインワークスでイベント企画、運営兼いわきチームリーダーを行う。

横尾 今日は、お忙しいなか企画に参加して頂いてありがとうございます。いわきチームは2013年の発足で、わたしは新体制になった2015年12月末からの参画になるのですが、改めて発足当のことから振り返ってもらえますか？

横尾 グリーンバードは、2002年に表参道、原宿で立ち上げられた団体です。表参道の商店街のなかに「けやき会」という青年部があつて、その活動の一環としてスタートしました。もともと路上のゴミが多くて業者さんにお願いしてたんだけど、それでも足りずに青年部でも自主的にやならなくちゃいけなくなつて。ゴミが全然減らなくて、じゃあどうすれば捨てる人を減らせるか考えた時に、1つは「捨う側」を目立てさせ、捨てにくい空気を作ろうと。そして2つ目に、ゴミ拾いに一度でも参加したら大変さがわかつて次には捨てなくなるだろうから、とにかく一度いいから参加してもらう。その2つを活動方針に据えて、グリーンバードプロジェクトというのが始まったんです。

松岡 今では本当に大きな広がりになりましたね。色々な地方から「うちにもやらせて欲しい」なんて連絡がたくさん来るんじゃないですか？

横尾 これまで意識して広げてきたつもりはないんだけど、月に3、4回、連絡が来ます。でもほとんど断っちゃう（笑）。やっぱり強いチームを作りたいんです。発足当時は「ボランティア」って言葉 자체が新しいもので、「ボランティアや社会貢献なんて偽善だ」って言ってる人も結構いました。でも、今は興味深い調査があって、地域貢献やボランティアに実際に参加してるのは社会全体の2割で、

反対に地域貢献なんて全然関係ないと言っている人も2割いるんだけど、残りの6割は「機会があったらやってみたい」層だというんですね。つまり、6割の人が潜在的にはポジティブってことです。でも現状を見てみると全然バイが広がっていないわけです。

松岡 残り6割の人と、すでにボランティアをやっている2割の人と合わせたら8割。社会全体の8割の人たちが実際に動き始めたら社会は変わりますよね。

横尾 だから6割をターゲットにしないといけないんだけど、いかにもゴミ拾いしてそうな、どことなくマジメそうな人がリーダーになると、6割の人たちが見向きもしないんです。だから、リーダーはちゃんと選びたいと思ってるし、はじめから「地域のために貢献したいのでグリーンバードの仲間に入れて」なんて連絡をもらっても、ちょっと待てよってなっちゃうんです。

松岡 はじめから「地域貢献」って言っちゃうと意識の高い人ばかり集まる団体になっちゃって、地域から浮いた存在になっちゃうじゃないですか。でも、グリーンバードは違っていて、ビジョンは明確なのに「ユルさ」もある。

横尾 地域づくりも同じで、既存のまちづくり団体に若者が行かないじゃないですか。6割の人たちが潜在的にポジティブなのに、未だに自治会や町内会は「若者に来て欲しい」と言ってる。そこに大きなギャップがあるんです。本当に勿体ないです。せっかく活躍できるフィールドが地域のなかにたくさんあるのに、若者はそれに見向きもせずにカンボジアとか行っちゃう。

松岡 そういう意味では、グリーンバードには地域のまちづくり団体と若者を橋渡しする「中間団体」みたいな役割があるかもしれませんね。1回でもゴミを拾うこと、そこで地域と接続されて、それが縁で地域のお祭りとかにも参加するようになります。それも助かったよ」とお子さんが声をかけて、お母さんが感動したみたいなんです。「うちの子はずっと支援される側だけだったので、誰からかありがとうございます。1回でもゴミを拾うことで、そこで地域と接続されて、それが縁で地域のお祭りとかにも参加するようになります。

横尾 そうですね。橋渡しをする団体が取つ付きにくかったら、誰も橋を渡ってくれないじゃん。その話で思い出したんだけど、最初、ソーシャルデザインワークスの北山代表に声かけられたときは、これ絶対に断るケースだなって思ったんです（大笑）。だって、障害福祉とか就労移行支援とか、とても硬い取り組みをされてるから。でも、ウェブサイト見てみたらすごく素敵で、実際に会ってみたら北山さんも松岡さんも変な人だし、これは良いなって。

松岡 あー（苦笑）そうですね…。私たちの仕事は一応「障害福祉」で、国の法律に基づいてやってることなので「障害福祉」とか「就労支援」とかになってしまいます。だから、いわきチームでイベントをやるときは「ごちゃまぜ」というキーワードを入れています。障害の有無とか国籍とか年齢とか一切関係なく、いろんな人たちが集まって良いイベントです。むしろ、既存の「障害福祉」っていうものを変えなくちゃいけないと思って活動してるくらいです。

横尾 だから、いわきチームでイベントをやるときは「ごちゃまぜ」というキーワードを入れています。障害の有無とか国籍とか年齢とか一切関係なく、いろんな人たちが集まって良いイベントです。むしろ、既存の「障害福祉」っていうものを変えなくちゃいけないと思って活動してるくらいです。

横尾 うん、わかる。だからこそ、支援される側とする側の逆転を生み出していくといけない。社会って本来苦しいけど、でもそれは言わないといけないし、本当に来れるごちゃまぜの場所が実際にあるって大きいよね。

社会を変えるために

松岡 今日の話を聞いて、改めて大事だなって思ったのは、社会を変えていくというときに、いったい誰に訴えていけばいいかってことだと思うんです。2割の人だけが本気になって動いていても、それと同じ2割の人が「そんなの意味がない」と思っていたら社会は変わりませんから。残り4割の人たちに訴えない。

横尾 なんで社会課題が沢山出てきたかって言うと、これまで社会を担ってきた2割の人たちが、結局その問題を解決できなかったからなんですよ。だったら今までと考え方を変えないといけない。変えるためには、今までずっと参加してきた人が参加し続けたらダメ。違う発想で解決してもららうかと思います。つまり、結局この4割にアプローチすることが世の中を変える力になる。

松岡 いろいろな人たちが集まると、また新たなグループができますよね。先日、いわき市内で行った「ごちゃまぜスポーツフェス」では、過去最高の70人が参加してくれました。通常グリーンバード活動は、ゴミ拾いだけを行いますが、今回はスポーツフェスの1つのコンテンツとしてゴミ拾いを盛り込みました。そうしたら、トラックの荷台1杯分くらいのゴミも集まりましたし、「ぜひごちゃまぜイベントでコラボしたい」なんて声も寄せられました。これはもっと広げられるなって思っています。

横尾 グリーンバードも、これからどんどんチームを増やしたいと思っていて、2020年までに100チームにしたいなって、



greenbirdとは？
「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに誕生した原宿表参道発信のプロジェクト。主な活動は、「街のそうじ」。でもこれは強制じゃありません。「街を汚すことカッコ悪いことだ。」という気持ちを持つだけでいいのです。いわきチームは、毎月第3土曜日に内郷駅を掃除しています。地域に根ざすことを一番に考え、内郷駅以外にも出張し、企業さんや市役所とコラボ、まちのイベントに参加したりと、誰でも参加OKなオープンな環境で活動中！

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 |
| | | 4 |

1. 原宿にあるグリーンバード事務局で対談を行う横尾さんと松岡。

2. 活動場所をいわき駅周辺から内郷駅周辺に移した第1回目のグリーンバード。現在は、JR内郷駅で月1回、定期で活動中。

3. グリーンバードいわきチームではその地域に住んでいる多様な方々と一緒に活動している。国籍も、性別も、年齢も、障がいの有無も一切関係なくみんなで楽しんでいる。

4. 全世界初の役職付きのポイントカードを1からデザインし、運用を始めたいわきチーム。子どもたちの参加率も高まり、他のチームにもポイントカードの運用が広まった。

なんとなく思っています。あとは子どもたちへのアクション。こんな価値観もあるんだ、こんな生き方があるんだってことを、子どもたちにも知ってもらう機会を作る。実はもうキッザニアとコラボしたり、小中高一貫校と提携してみたり、やっているものもあるんだけど。

松岡 一緒にです。子どもは大きなキー ワード。10年、20年後まで続けていくことが大事ですよね。子どもたちにいろいろな体験をして欲しいということももちろんですが、子どもたちの体験を通じて、お父さんお母さんも考えるようになるんです。そして、そういう場を、多様な形で提供していきたいと思います。そういうえば、いわきチームが作ったグリーンバードの子どもも向けのスタンプカード、本部でも気に入って頂けたみたいでありがとうございました。

横尾 あのカード、めっちゃいいよね。まさにこういうところに期待してるのよ、いわきにチームには。だから基本はグリーンバードで何をしてもいいと思う。いわきから新しいグリーンバードを作って、そして全国のチームを引っ張っていってもらいたい。そして、地方を盛り上げていきたいよね。

松岡 そうですね、地味にじゃなく、楽しく、カッコよく。今日はありがとうございました。



ごちゃまぜスポーツフェス!



わたしたちの考える「ごちゃまぜの価値観」を、1人でも多くの人たちに伝えたい。
そんな思いで開催しているソーシャルスクエアの「ごちゃまぜイベント」。
多様な人たちが、ごちゃまぜに「楽しい」や「面白い」を共有できるには
どうしたらいいか、みんなで考えたすえに出てきたのがスポーツでした。
9月に行われた「ごちゃまぜスポーツ」の模様を振り返っていきます。



10:00- 集合
イベントスタート !!!



10:20- 体育館で準備体操
プロトレーナーさんを囲んでストレッチ

お昼ごはん
豚汁であつたまる

10:40- アイスブレイク
全身を使ってじゃんけん！など盛りだくさん



11:30- グリーンバード
特別編！草拾い bird!!

12:00- 昼食
観陽亭さんから豚汁の差し入れ !!

オ---

13:00- サッカー場でボール遊び
晴れたから芝生でおもいっきり

14:00- ミニサッカー
負けられない戦いが開催！

いわき市平下高久に、今年4月にオープンした新舞子ヴィレッジ。日本サッカー協会が東日本大震災の復興支援の一貫として整備した、人工芝の美しい多目的運動場です。野球場やサッカー場などが併設されており、「この芝の上でみんなで遊んだら気持ちがいいだろうな」と、そんな単純な思いからプロジェクトはスタートしました。

いわき市スポーツ振興課の皆さん、新舞子ヴィレッジのコーチの皆さん、さらにはいわき市沼ノ内の仕出し弁当「観陽亭」さんに豚汁を無償で提供して頂いたり、新舞子ハイツさんが特別に温泉の入浴料を割引してくれたりと、関係各所の皆さんから多大なサポートを頂きました。私たちの取り組みに共感して頂き、こうして力を貸して頂いたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

さてこの日のごちゃまぜスポーツフェス、コーチをして頂いたのは、Jヴィ

レッジの現役のスタッフの皆さん。コーチングの経験が豊富な皆さんなので、準備体操から違うんです。適度に遊びが取り入れられているので、いつの間にか参加者の心の壁が取り払われ、一体感のある雰囲気が生まれつつ、しっかりと身体が温まっています。

お昼の休憩を挟んで午後までみっちりとスポーツ。皆さん爽やかな汗を感じながら、身体を動かすことの気持ちよさを感じて頂けたようです。何より自然な形で交流が生まれ、その交流を通じて場の一体感が生まれていく。最終的には70人の参加者が一緒になって身体を動かしました。このような一体感が生まれたのは、スポーツの力あってこそだと思います。

この日は、市内の養護学校などに通う子どもたちと一緒に参加していましたが、さすがは子どもたち。障がいの有無に関係なく、自ら進んで手を取り合い、一緒に身体を動かしていました。

私たち大人は「障がい」という言葉や、小さな違いに目をとられがちですが、子どもたちは関係なく、1人の「ともだち」として接しているんですね。

そういう子どもたちの姿を見て、親たちも感じることがあったようです。障がいの有無に関係なく、こうして手を繋ぎ合って、お互いの存在を認め合って、自然体で接することができる。理想は少し青臭いかもしれません、を目指すべき社会のビジョンを、子どもたちの姿を通じて垣間みることができたような気がします。

そして、改めて感じたのがスポーツの力です。身体を動かすことの「楽しさ」を「みんな」で共有できる。しかもその共有の仕方が、手を繋いだり、身体をぶつけあったりという「フィジカル」なコンタクトなのが良いのかもしれません。わたしたちが伝えていきたい「ごちゃまぜ」の価値観を、自然に、そして楽しみながら感じてもらえたのでは

ないかと思います。
2020年には、東京オリンピック・パラリンピックも開かれます。いわきも、もしかしたら様々なトレーニングや交流の場になるのかもしれません。様々なバックボーンを持った人たちをもてなすのも私たちの役割。いわきに「ごちゃまぜ」という多様性ある価値観を、伝えていければと思っています。



日本サッカー協会（JFA）が東日本大震災復興支援活動の一環として整備した「新舞子フットボール場」、宿泊施設「新舞子ハイツ」、多目的運動場を含む体育施設。いわき市平下高久に今年完成した。新舞子フットボール場は、人工芝のフットボール場1面（小学生コート2面分）、県社会人リーグや中学、高校の全国大会予選などの公式戦なども行われ、一般にも開放されている。施設の予約、問い合わせは、電話0246(39)4801まで。

～ソーシャルスクエアから～

障害福祉サービス事業所ソーシャルスクエアで行われているカリキュラム、取り組みを紹介!



移行支援事業所合同模擬面接会

毎年10月に、障がいのある方が対象となる「障害者合同面接会」が労働局主催で行われますが、その合同面接会でよりよい結果を得るための訓練の場を作ろうと、いわき市内にある4つの就労移行支援事業所が合同で模擬面接会を行っています。どの事業所も合同面接会に向けて個別には面接の訓練を行っていますが、より緊張感があり、より本番近い形で、就職希望者の課題を事前に解決しようという狙いがあります。

4事業所からそれぞれ面接官を出し、模擬面接を経て、評価・フィードバックをしてもらい、本番までに改善していきます。言葉遣い、服装など、改善点が多く指摘される方もいます。しかし、各事業所の職員が身だしなみについて指摘しても全く改善が見られなかった方が、他の事業所の職員から指摘を受けたことでようやく自覚をし、すぐに身だしなみの改善がされたというケースもあります。このように、4つの事業所が合同で模擬面接会を行うことのメリットは大きなものがあります。

地域の課題は、1つの事業所だけが取り組んでも解決には至りません。運営会社や運営法人が違っても同じ福祉サービスという領域で、同じ目標に向かい取り組みを行っている事業所が協力し、利用者が一番いい環境で支援を受けられることが重要です。今後も事業所の隔てなく柔軟に支援ができ、それぞれが抱える課題を複数の事業所で課題検討する機会を作り、地域の支援力の底上げを目指していきたいと思います。

ソーシャルスクエア
メンバー募集中

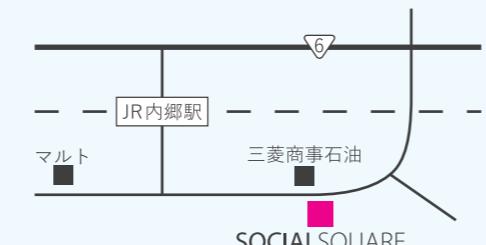
1年後の自分は、
もっと自分らしく。

お気軽にご相談ください。

TEL|0246-84-8301
9:00 - 17:00 翌年末年始・休業日除く

FAX|0246-84-8302

MAIL|ss@sdws.jp



Tel 973-8404
福島県いわき市内郷内町水之出 17
JR 常磐線内郷駅から徒歩 8 分



カリキュラム | なぜ働くのか

みなさんは、なぜ働いていますか。お金のため、幸せになるため、やりがいを感じるため、周りから評価されるためなど様々な回答が返ってくると思います。急に聞かれると困惑する人もいるでしょう。働くことを支援するソーシャルスクエアでは、今後の就職活動、また働いてからのモチベーション維持のために「働く」ということについて考えるカリキュラムを提供しています。今回実施したのがカリキュラム「働くとは」です。

なぜ人が働くのかを考えるうえでヒントとなるのが「マズローの欲求段階説」。これは、人間の欲求は「生理的欲求」「安全欲求」など5段階のピラミッドのように構成されていて、低階層の欲求が満たされると、より高次の階層の欲求を欲するというものです。さらに、5つの段階を満たすと、もう1つの段階「自己超越」があるとされ、「目的的遂行・達成『だけ』を純粹に求める」という段階で、見返りも求めず、自我を忘れてただ目的のみに没頭するというものだそう。

ここでのポイントは、欲求は不可逆なものとしていることです。一度、欲求が満たされると同じ階層や下位階層では欲求が満たされません。そのため、長く働くためには今まで自分がどういった欲求で満たされていたのか、今後どういったことに喜びを感じていくのかを就職先選びの前にしていくことが必要となっていきます。「働くとは」のカリキュラムは「将来像」と「今やるべきこと」をクリアにしていく第一歩となることでしょう。

ソーシャルスクエアとは、社会と現在の自分を結ぶための広場を創造することをコンセプトに、障害者総合支援法に則った障害福祉サービスを提供している福祉事業所です。障害特性への理解がある支援クルーにより、生活習慣の見直しや働くためのスキル習得など様々なニーズの方にご利用いただける環境を整えています。**就労移行支援**とは、体調管理、コミュニケーション訓練、職業訓練、生活相談などの支援を受けながら支援クルーと一緒に就職と、その後の職場定着を目指していく場所です。**自立訓練（生活訓練）**とは、リラックスできるサードプレイスとして、さまざまな活動を通じ、心に栄養と生活リズムを整え、活力ある人生に一歩づつ踏み出していく場所です。



実習を通して働く準備を



人生に楽しみを増やしていく



気軽に相談できる場所



全国障害者就労支援 ローカルネットワーク研修会in福島

8月5日（金）、全国で就労移行支援事業所などを運営する企業や団体が集まり、広く意見交換を行う「全国障害者就労支援ローカルネットワーク」の研修会がソーシャルスクエアで開かれました。ローカルネットの研修会は、東北では初。記念すべき第1回の会場を選んで頂きました。

全国障害者就労支援ローカルネットワークは、北海道から沖縄まで30を超える事業所が名を連ねる広域ネットワークです。失業率が高く、大企業の少ない地域で障がいのある方の就労移行を実践している団体・個人のノウハウを共有化し、安定した事業運営を政府に働きかけ、社会から疎外化され続けていた障害者の社会的復権を目指しています。研修会は、それぞれの事業所の取り組みや支援の実例を聞くことにより、個別の事業所では得にくい新たな視点を獲得し、連携を強化する狙いがあります。

講演や実例紹介では、株式会社エンラボの金納健次郎さん、福島就業支援ネットワーク事務局長の鈴木康弘さん、株式会社マルトグループホールディングス管理本部副本部長の石山伯夫さん、社会福祉法人こころんの関根考迪さん、NPO法人福祉親愛会の河野聰子さん、そして、社会福祉法人福音会の橋本芳武さん、この6人から、講演と実例紹介をして頂きました。それぞれが非常に有益で、これからの支援に多いに参考になるお話ばかりでした。

障がい者雇用においては、当事者だけでなく、そのご家族や関係機関との連携が欠かせませんが、一番重要なことは「当事者はどう思っているのか」だということを、改めて痛感されました。この部分を、全関係者が共通認識を持ち、そのうえで「必要な支援」を行っていく。今回の研修は、支援の原点とも言えるポイントに、立ち返る大変貴重な時間となりました。

2017年2月18日（土）にも、いわき産業創造館において「全国障害者就労支援ローカルネットワーク」の研修会が開かれます。関係機関の皆さま、障害者雇用に関わる皆さま、そして地域づくりの担い手の皆さま、ぜひ広くご参加下さい。



第9回全国大会/研修会

2017.2.18 (sat)
in IWAKI, FUKUSHIMA

開催決定！

大会の詳細はwebで随時更新！

Facebook 「全国障害者就労支援ローカルネットワーク」で検索！

編集後記

「ごちやまぜ」というワードが生まれたのは、去年の11月。初イベントは芋煮会㏌三坂の廃校でした。障がいの有無だって年齢だって関係ない。誰でも参加出来るイベント=「ごちやまぜイベント」が誕生し、1年を迎える。常に考えていたことは、参加者と一体となって、イベントを共創すること。主催者だけでイベントを作り上げるんじゃ自己満足。自己犠牲も生まれちゃう。みんなで楽しまないといふそう思ってやってきました。

そして、グリーンバードも特集として掲載していますが、いわきチームも来月12月で、早くも結成1年を迎えます。企業さんとコラボしたり色々なことをやってきましたね。ただのゴミ拾いばかりやっていても正直つまらない。結果的にまちがキレイになるなら、楽しみながらやったほうが得じゃないか！イベントを企画する上で、好奇心がありすぎる性格でよかったなーと振り返りました。笑

企画 / 松岡真満

今回のスポーツフェスを紙面に落とし込むには苦労しました。なにせ、いい写真が多い。当日は私もカメラマンとしてイベントに参加していましたが、今日は特にシャッターチャンスが多かった気がしています。それは、年齢や性別、もちろん障がいの有無も簡単に飛び越えていく瞬間が多かったからだと思います。今回はスポーツの力を強く感じ、今後のごちやまぜへの展開もわくわくしました。

また、スポーツフェスはそのときだけの

交流ではありませんでした。後日行ったグリーンバードの活動やイベントでは、以前より参加者の距離感がグッと近づいていることを感じています。イベントをする毎に参加者の温度も変わってきます。「今」、起きていることを記録していくことをタブロイドを発行している大きな役割。その温度の変化をみなさんに届けられるよう今後もデザインしていかなければと思います！

デザイン / 小松知寛